

第21回 ASLE-Japan／文学・環境学会全国大会プログラム

とき：2015年8月22日（土）～23日（日）

ところ：安藤百福自然体験指導者養成センター（〒384-0071 長野県小諸市大久保 1100 番 電話 0267-24-0825）

HP：<http://www.momofukucenter.jp/>

大会実行委員：茅野佳子（日本大学・非）河野千絵（日本大学・非）

8月22日（土）

11時30分 受付開始 12時～12時30分 役員会（食堂）

12時40分～12時55分 開会の辞 & センター利用のオリエンテーション・諸連絡（カンファレンスホール）

13時～14時 個人発表（カンファレンスホール）

（1）司会：小谷一明（新潟県立大学）

「島の環境と民族の誕生——小笠原諸島におけるエスニック・グループ研究」 北国伸隆（明治大学・院）

（2）司会：波戸岡景太（明治大学）

『ライオンキング』の操り手——Julie Taymorの演出に見る「道具」としての動物」 武田寿恵（明治大学・院）

14時～14時15分 休憩

14時15分～15時45分 シンポジウム（カンファレンスホール）「動物といのち」

司会：管啓次郎（明治大学）

石倉敏明（秋田公立美術大学）、木村友祐（小説家）、分藤大翼（信州大学）、山口未花子（岐阜大学）

15時45分～16時 休憩

16時～17時30分 基調講演（カンファレンスホール）

司会：茅野佳子（日本大学・非）

講師：今泉吉晴氏（都留文科大学名誉教授・動物学者・著述家）

演題：「シートンの知られざる偉業」

*基調講演後、センター宿泊者のチェックイン。部屋割りを事前配布。

18時～19時 夕食（食堂）*チェックインの済んだ人から配膳・食事を始めてください。

19時5分～20時5分 ラウンドテーブル（カンファレンスホール） 「いま石牟礼道子を読むということ」

コーディネーター：結城正美（金沢大学）

話題提供者：澤田由紀子（甲南大学・非）、豊里真弓（札幌大学）、山田悠介（立教大学・院）、結城正美

20時10分～ 懇親会（院生組織による企画を含む）（食堂）*センター宿泊者は、入浴時間が23時までなので、随時ご入浴ください。

8月23日(日)

7時～8時 朝食 (食堂) *準備のできた方から配膳・食事を始めてください。

8時15分～8時45分 総会(カンファレンスホール)

* 総会后、センター宿泊者は部屋の掃除とチェックアウトをお願いします。チェックアウトは10時なので早めにお済ませ下さい。

9時20分～10時20分 個人発表(カンファレンスホール)

(3) 司会: 管啓次郎(明治大学)

「ジャマイカ・キンケイド『川底に』における<わたし>の記述」三宅由夏(東京大学・院)

(4) 司会: 結城正美(金沢大学)

「現代英米圏環境美学におけるネイチャー・ライティングの位置——アレン・カールソンの思想を中心とする考察」青田麻未(東京大学・院)

10時20分～10時35分 休憩

10時35分～12時5分 パネル発表(フランス語圏パネル)(カンファレンスホール) 「エコロジカルな視点で見たフランス語圏文学」

コーディネーター: 大辻都(京都造形芸術大学)

発表者: 鶴戸聡(鹿児島大学)、大辻都、笠間直穂子(國學院大学)、工藤晋(東京都立国分寺高校)

12時15分～13時15分 昼食(食堂) *準備のできた方から配膳・食事を始めてください。

13時20分～14時20分 個人発表(カンファレンスホール)

(5) 司会: 高橋綾子(長岡技術大学)

「動物とモノをめぐる存在論、あるいはエコソフィーについて」上野俊哉(和光大学)

(6) 司会: 豊里真弓(札幌大学)

「環境文学としての『ポスト3.11文学』の可能性」芳賀浩一(城南国際大学)

14時20分～14時40分 休憩

14時40分～16時 シンポジウム(カンファレンスホール) 「自然の風景——発見への問いかけ」

コーディネーター: 亀海史明(東京藝術大学大学美術館 学芸研究員)

笠間悠貴(写真家)、中村絵美(美術家)、上城紗葉子(明治大学・院)、小金万理恵(明治大学・院)、山口将邦(明治大学・院)、篠塚起己
央(明治大学・院OB 会社員)、赤塚絵理(作家)、橋口静思(明治大学・院)、亀海史明

16時 閉会の辞

* 閉会后、使用した部屋の片づけ・清掃をします。今年度は、時間の制約があり、全国大会プログラムの一部としてのフィールド・トリップは実施しませんが、1日目の午前、2日目の早朝、大会終了後等に、自由にセンター周辺の遊歩道やトレイルの散策をお楽しみください。非会員の方の大会参加も歓迎いたします。(参加費1000円を当日受付にてお支払いください。)



「小諸なる古城のほとり」-落梅集より-
島崎藤村

小諸なる古城のほとり
緑なすはこべは萌えず
しろがねの衾の岡辺

雲白く遊子悲しむ
若草も藉くによしなし
日に溶けて淡雪流る

あたゝかき光はあれど
浅くのみ春は霞みて
旅人の群はいくつか

野に満つる香も知らず
麦の色わづかに青し
畠中の道を急ぎぬ

暮行けば浅間も見えず
千曲川いざよふ波の
濁り酒濁れる飲みて

歌哀し佐久の草笛
岸近き宿にのぼりつ
草枕しばし慰む